

令和3年度 いわき総合図書館 企画展

# いわきの水道



- 水道通水100周年 -

- 1 水道が通る前 ..... 1p
- 2 平町の給水開始 ..... 1p
- 3 上水道・簡易水道の新設 ... 3p
- 4 昭和20年以降の新增設 ... 5p
- 5 簡易水道の新設 ..... 6p
- 6 水道部の新設 ..... 6p
- 7 拡張事業 ..... 6p
- 8 災害に強い水道を ..... 7p
- 9 水道のいま、これから ..... 7p
- 年表 いわきの水道100年 ... 8p
- 参考資料 ..... 10p



いわき市立いわき総合図書館

いわき市平字田町120 ラトブ4・5階

TEL 0246-22-5552

<http://library.city.iwaki.fukushima.jp>



## ◆ 開催にあたって ◆

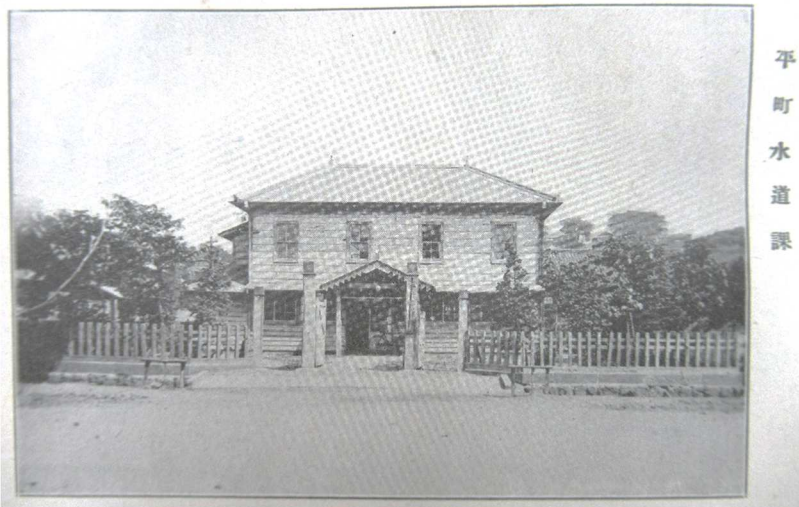
水道水は、飲み水や調理、入浴、洗濯など、毎日の私たちの暮らしを支えています。現在、いわき市では11の浄水施設でつくられた水道水が各家庭へ届いています。

いわき市の上水道の始まりは、大正10(1921)年11月1日、旧平町での給水です。昭和に入り、各地に造られた水道は、昭和41(1966)年14市町村の合併により「いわき市」が誕生した際に、それぞれの市町村から引き継がれ、統合ののち、昭和44(1969)年に「いわき市上水道」の創設に至りました。

その後、水需要の増加に対応するため、三期にわたる拡張事業を経て、現在では給水区域面積が466平方キロメートルに及ぶ広域水道事業体となりました。

本年は水道通水100周年という大きな節目を迎えるにあたり、いわき市水道局の協力のもと、今回の企画展を開催することとなりました。図書館に所蔵している当時の写真や絵ハガキなどを中心に、いわき市の水道の歴史、現在の水道事業を紹介する資料を展示します。

いわき市立いわき総合図書館



平町水道課

平町水道課  
『平町上水道誌』 福島県石城郡平町役場 大正15(1926)年

## ◆ 1 水道が通る前 ◆

水道が通る前の生活用水は、沢水や河川の流水、湧水、井戸水等を使用していましたが、伝染病の発生など衛生的にもきびしいものがありました。

平町では井戸の水質調査を大正 5 (1916) 年に実施したと大正 15 (1926) 年発刊の『平町上水道誌』に記されており、地質は腐食性有機物を含み、鉄分が多く飲み水としては使えない井戸が数多くありました。

町内で飲み水に適しているとされたのは、10 余りの井戸水と共同による簡易水道。そのほかに川の水や街中を流下する愛谷江筋などのかんがい用水を米とぎ、野菜洗い、洗濯、風呂などに利用し、また、ろ過して飲料としました。

昭和 58 (1983) 年発刊の『いわき市水道史』に「明治末から大正初期頃、平町に水売りを商売にしていた人が二人いた。」との記録もあり、水は大変貴重なものだったことがわかります。

合計	不適飲料水		適濃過飲料水		不適飲料水		適飲料水		水質區別
	江水	堀井	水道	堀井	水道	堀井	水道		
六七五	1	47	1	614	1	10	4	種別個	
一三五五	162	186	1	1,007	1	1	1	使用戸数	
二,〇四八	92	233	1	741	1	560	432	不適過使用戸数	
三,四〇三	254	409	1	1,748	1	560	432	計	

(大正五年調査)

水質調査(大正五年調査)

『平町上水道誌』 福島県石城郡平町役場 大正 15(1926)年

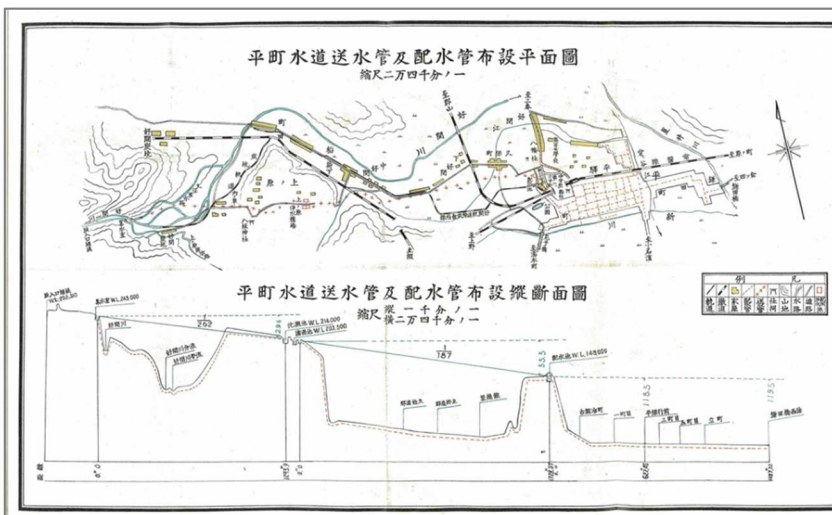
675 か所あるうち、適格と見られているのが適飲料水井戸 10 か所、適格ろ過飲料水堀井 47 か所の、57 か所となっています。

## ◆ 2 平町の給水開始 ◆

明治時代になり、平町には公私立の学校、平郵便局、警察署、石城郡役所など行政機関が整い、商工業が盛んになったことでより水道が必要となりました。明治 26 (1893) 年に、水道期成同盟会が成立しましたが、このときの水道布設計画は日清戦争の勃発により中止となりました。

その後、明治 39 (1906) 年に平町に大火事が起こり、水不足のため消火できず、町のほとんどが焼失してしまったことで、住民からも一日も早い水道設置との声が高まり、同年に再び平町水道視察委員を設け水道計画が立てられました。計画は水源をめくり難航し何度かの変更後、好間川を水源とすることで大正 6 (1917) 年 3 月にようやく認可されました。

工事は 4 年をかけて行われ、大正 10 (1921) 年 11 月 1 日、給水開始となりました。

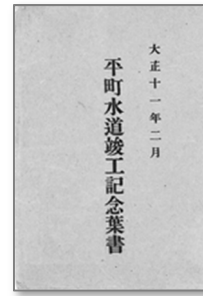


平町水道送水管及配水管布設  
平面・縦断面図

『平市上水道第二期拡張誌』

平市役所 昭和 29 (1954) 年

待ちに待った水道の開始に人びとは喜び、記念絵はがきが発行されました。公営水道としては、県内では郡山市に次いで、国内では41番目の給水開始となりました。



『平町水道竣工  
記念葉書』袋

平町役場  
大正 11(1922)年  
2月



平町水道 八幡小路配水構場

『平町水道竣工記念葉書』平町役場 大正 11(1922)年 2月



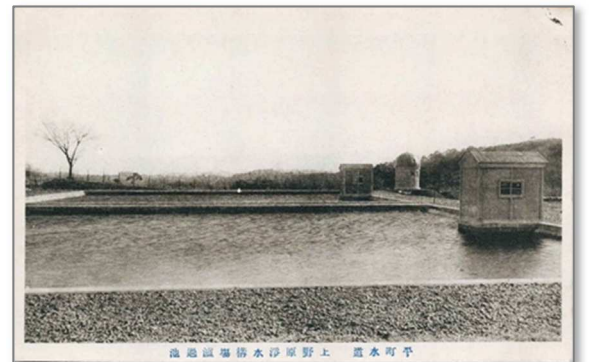
平町水道 上好間東唐松取入口集水室遠景

『平町水道竣工記念葉書』平町役場 大正 11(1922)年 2月



平町水道 好間川第一伏越工事実況

『平町水道竣工記念葉書』平町役場 大正 11(1922)年2月



平町水道 上野原浄水構場沈殿池

『平町水道竣工記念葉書』平町役場 大正 11(1922)年2月



平町水道 北好間残花地先送水線鉄筋モルタル管理設工事実況

『平町水道竣工記念葉書』平町役場 大正 11(1922)年2月



平町水道 好間川大瀧導水引入口

『平町水道竣工記念葉書』平町役場 大正 11(1922)年2月



平町水道 好間川大瀧導水溝余水吐

『平町水道竣工記念葉書』

平町役場 大正 11(1922)年2月

## ◆ この頃の平町の様子 ◆



平駅舎と周辺 佐々木商店発行 明治44(1911)年



平停車場前田町通り  
佐々木商店発行 大正時代



平町本町二丁目通り  
佐々木商店発行 大正時代



『平町市街全図』

大正 11(1922)年2月

## ◆ 3 上水道・簡易水道の新設 ◆

戦前には、平を始め湯本、江名、四倉、小名浜の5町に水道が築造されました。昭和6(1931)年に着工した湯本町上水道が昭和8年に竣工したのに続き、昭和10年代に江名、四倉、小名浜の海岸部3町の水道が築造となりました。

### ○湯本町

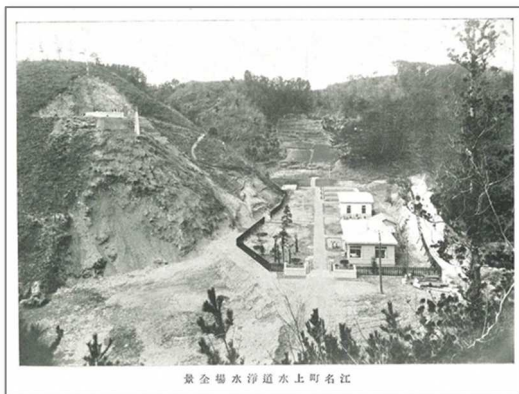
昔から温泉地として知られていましたが、地下水にも温泉水が加わっていたので、住民は河川の水や遠くの山麓からの湧水、井戸水を運搬するなどして飲料水を確保していました。

明治16(1883)年に磐城炭礦株が創立され、引き続き白水炭鉱株が明治26(1893)年、入山採炭株が同28(1895)年、三星炭鉱株が明治30(1897)年など相次ぐ採炭地域の拡張により、炭鉱の町

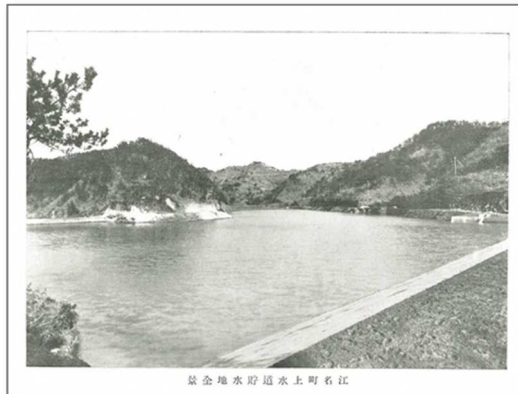
としてにぎわいを増していくなか、地下水の低下減少が起こり、温泉源にも影響を及ぼしたことで、大正 8 (1919) 年 5 月に地域住民が大会を開き、補償策として入山採炭(株)に水道の布設を求め、暫定補償給水などの措置が講じられました。その後、昭和 5 (1930) 年 5 月に炭鉱の有する水権利の譲渡をうけ、上水道の布設計画が立てられ、昭和 6 (1931) 年 9 月に工事が始まり、昭和 7 (1932) 年 6 月から水道による一部給水が始まりました。

### ○江名町

海岸地帯のため塩分が多く、井戸水は渋みがあるなど飲料には適しませんでした。また、海岸部に位置することから水源を河川水に求めることが困難なため、雨水を主とする溜池を築造し、水源貯水池として計画給水人口 6,000 人の規模により、昭和 10 (1935) 年 9 月に給水を開始しました。



江名町上水道 浄水場全景  
『上水道実施設計書』石城郡江名町 昭和 8 (1933) 年頃



江名町上水道貯水池全景  
『上水道実施設計書』石城郡江名町 昭和 8 (1933) 年頃

### ○四倉町

海岸部に位置するため、雨水を主とする溜池を築造し、水源貯水池として計画給水人口 8,000 人の規模により昭和 12 (1937) 年 7 月に給水を開始しました。後年、補給源として、河川伏流水を仁井田川に確保し、貯水池に導入して不足を補いました。



放水試験(四倉町海気館前) 『四倉町上水道抄誌』  
四倉町水道部 昭和 12(1937)年



工事中ノ配水鉄管  
『四倉町上水道抄誌』  
四倉町水道部  
昭和 12(1937)年

### ○小名浜町

近隣の海岸地帯と同様、井戸水に塩分が多いため飲料には適さないことから水道設備が要望されていました。かんがい用水の鮫川堰疎水路が完成したことにより、水道との共用が可能となり、遠野村内から鮫川の水を共用導水しました。計画給水人口を第一期 20,000 人、第二期 30,000 人とし、昭和 14 (1939) 年 12 月に給水を開始しました。

## ◆ 4 昭和 20 年以降の新增設 ◆

太平洋戦争後、昭和 20 年代は、経済の安定、人口増加とともに好況に支えられ、水道事業が著しく伸張しました。いわき市地域の上水道の事業数は、勿来町(昭和 24 年 2 月)、内郷町(昭和 25 年 12 月)、久之浜町(昭和 26 年 3 月)、植田町(昭和 29 年 5 月)の 4 町の創設によって、昭和 29 年までには戦前の 1 市 4 町に合わせ 9 事業となりました。

また、四倉町(昭和 23 年 4 月第一次、昭和 25 年 12 月第二次)、江名町(昭和 26 年 3 月第一次、昭和 29 年 2 月第二次)の 2 回、小名浜町(昭和 25 年 1 月第一次)、平市(昭和 26 年 4 月第二次)がそれぞれ拡張工事を実施し、給水規模が飛躍的に増大し、昭和 29 年現在 9 事業を合わせ計画給水人口は 208,300 人となりました。

### ○勿来町

井戸水を飲用していましたが、水質が悪く伝染病の発生が危惧され、また、将来の井戸水の枯渇も懸念されていました。このため水道設置を望む町民の世論は大きく、計画給水人口 20,000 人とし、水源を鮫川支川の四時川に求めた計画で昭和 24(1949)年に認可され、昭和 26(1951)年 1 月に給水を開始しました。創設後は他町村への浄水分水によって経営基盤の整備と拡充を図っていきました。

### ○内郷町

炭鉱の発展に伴い地下採掘区域が拡大し、地下水の坑道浸透により井戸水が次第に枯渇するようになり、明治 37(1904)年 8 月に磐城炭礦(株)は、鉱業用水として水道を設置するとともに、井戸水枯渇の補償として地域住民に同水道から無料給水を開始しました。昭和 19(1944)年 3 月、磐城炭礦(株)は入山採炭(株)と合併し常磐炭礦(株)となり、内郷町上水道は常磐炭礦水道からの分水により給水を開始しました。

### ○久之浜町

ほとんどの住民は井戸水を使用していましたが、海岸に隣接している関係で塩分が多く、井戸水は渋みがあるなど飲料には適しませんでした。昭和 26(1951)年 12 月に工事に着工し、昭和 28(1953)年 1 月に一部給水を開始しました。

### ○植田町

海拔 3～4 メートルのため井戸水は多量の塩分を含んでおり、また、伝染病発生防止などの衛生状況改善や防火用水としての水道の設置は緊急不可欠の要望でした。何度かの水道計画がありましたが、水源確保と費用の問題やまた戦争の影響などの困難が続きました。

昭和 28(1953)年に布設調査が着手され、今後の産業発展が見込まれることから給水人口が多い計画申請をしましたが、申請後、勿来町上水道からの分水案が出るなどしてまたも難航しました。昭和 29(1954)年 5 月、鮫川を水源にようやく認可され、昭和 33 年 3 月 31 日に工事が完成しました。

## ◆ 5 簡易水道の新設 ◆

昭和 27(1952)年計画給水人口 5,000 人以下の小規模施設となる簡易水道新設に対して国庫補助の制度がとられ、これが水道の急速な普及を促しました。

中小炭鉱の採炭事業によって河川の汚濁、井戸水の枯渇に悩んでいた地区では、昭和 28(1953)年の川部村、磐埼村に次いで翌 29(1954)年には、平市平窪地区、山田村上山田地区など次々に簡易水道が新設されました。

『いわき民報』  
昭和34(1959)年6月4日



## ◆ 6 水道部の新設 ◆

昭和 41(1966)年 10 月 1 日、14 市町村(平市、磐城市、勿来市、常磐市、内郷市、四倉市、遠野町、小川町、好間村、三和村、田人村、川前村、久之浜町、大久村)が大同合併し、当時としては日本一広い面積を持ついわき市が誕生しました。

これに伴い、いわき市に「水道部」が新設され、水道行政は一括化されました。

水道部は市内 9 の上水道、19 の簡易水道事業を旧市町村から引き継ぎ、昭和 44(1969)年にこれらを統合し、「いわき市上水道」を創設しました。いわき市上水道創設事業は、昭和 44(1969)年 2 月に厚生大臣の認可を受け、計画規模は、給水人口 277,000 人、1 日最大給水量 102,490 m<sup>3</sup> となり、給水区域は、343.56 平方キロメートルと広域化しました。

また、水道料金の統一調整事務も急速に進められ、昭和 44(1969)年 10 月、統一料金が適用となりました。



いわき市水道局

## ◆ 7 拡張事業 ◆

昭和 47(1972)年から開始された「いわき市上水道拡張事業」は、水道の普及が進み、多くの水利用に対応するため、浄水場の拡大、配水管を延長や、簡易水道を上水道につなげる工事など、水道拡大の工事を進めており、現在は第三期拡張事業として行われています。



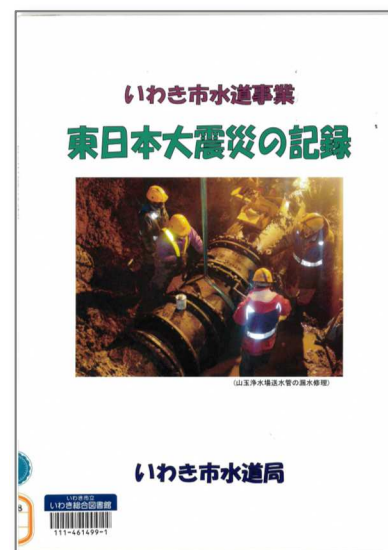
## ◆ 8 災害に強い水道を ◆

平成 23(2011)年 3 月 11 日に発生した東日本大震災と、その 1 か月後の 4 月 11 日に発生した大規模余震により、大規模な断水が発生しました。

さらに、令和元(2019)年 10 月に発生した東日本台風により平浄水場が浸水し、大規模な断水となりました。

現在、災害に強い水道を目指し、浄水施設や水道管などの耐震化を図るとともに、震災・水質事故などの非常時においても断水することなく安定した給水ができるよう、基幹浄水場間で水を相互融通する連絡管整備工事などを行っています。

また、災害発生時の応急給水用に、市内 26 か所の小・中学校の校庭や公園などに耐震性貯水槽を設置、仮設給水所設置用の給水栓整備、給水タンク車の配備を行っています。



『いわき市水道事業  
東日本大震災の記録』  
いわき市水道局 平成 24(2012)年

## ◆ 9 水道のいま、これから ◆

水道事業の概要 令和 2 年 3 月末現在

- ・ いわき市区域面積 約 1, 232. 26K m<sup>2</sup>
- ・ 給水区域面積 約 466. 25K m<sup>2</sup>
- ・ 給水対象 いわき市
- ・ 給水人口 329, 675 人
- ・ 一日最大配水量 139, 618 m<sup>3</sup>/日  
(令和元年 10 月 23 日)
- ・ 一人一日最大配水量 424 リットル/日



『すいどういわき』創刊号  
いわき市水道局  
平成8(1996)年 7 月



『すいどういわき』第 82 号  
いわき市水道局  
令和3(2021)年5月

近年、人口減少や節水機器の普及等により水需要は減少傾向にあり、料金収入が減少している一方、施設の老朽化による更新事業や災害に強い施設の整備など、水道事業は、多くの課題を抱えています。

こうした状況を踏まえ、平成 29(2017)年 1 月に、10 年間(2026 年度まで)の施策の方向性を示す「新・いわき市水道事業経営プラン」が策定されました。この計画は、従前からの基本理念「未来に引き継ぐいわきの水道～安全でおいしい水を必要なだけ～」を継承し、いわきの水道を次世代に健全な姿で引き継いでいくものとなっています。

いわき市の水道は、100 周年を迎え、これからの未来へ進んでいます。

❖ いわきの水道100年 ❖

西暦	年	月	主な出来事
1917	大正6年	3月	平町上水道事業認可
1921	10年	11月	<b>平町上水道給水開始</b>
1932	昭和7年	6月	<b>湯本町上水道給水開始</b>
1935	10年	9月	<b>江名町上水道給水開始</b>
1937	12年	7月	<b>四倉町上水道給水開始</b>
1939	14年	12月	<b>小名浜町上水道給水開始</b>
1951	26年	1月	<b>勿来町上水道給水開始</b>
1952	27年		常磐炭礦からの分水により <b>内郷町上水道給水開始</b>
1953	28年	1月	久之浜町上水道給水開始
1966	41年	4月	小川町上水道給水開始
		10月	<b>いわき市誕生</b> <b>「いわき市水道部」新設</b> 旧市町村から事業を引き継ぐ (上水道9事業・簡易水道19事業)
1967	42年	3月	【昭和41年度末 上水道配水管延長568km】
1969	44年	1月	水道メーター検針 業務委託開始
		2月	上水道施設統合工事認可
		10月	合併前水道料金を調整統一
1970	45年	4月	水道料金の金融機関 口座振替開始
		9月	古河好間炭鉱閉山による 専用水道統合工事認可
1971	46年	1月	給水加入金制度全面実施
		7月	「いわき市水道事業 経営審議会」設置
		8月	台風23号による泉浄水場等 水道施設被害 (断水約1万9350戸)
		9月	水道料金改定(口径別料金体系 採用、簡易水道料金の一歩化)
1972	47年	3月	<b>第一期拡張事業認可</b>
		3月	上水道施設統合

水道局資料『いわき市水道局のあゆみ』より作成

西暦	年	月	主な出来事
1973	昭和48年	5月	<b>水道部を水道局に変更</b>
		夏季	7・8月異常湯水 (約2万7000戸に断水等の影響)
1974	49年	7月	平浄水場の完成
1976	51年	3月	上遠野簡易水道(遠野) 拡張統合
		10月	栗木作(四倉) 地すべり災害 (栗木作浄水場貯水池決壊事故 断水約2300戸)
1977	52年	3月	田人簡易水道(田人) 拡張統合
		3月	【昭和51年度末 配水管延長995km】
		3月	山玉浄水場完成
1978	53年	4月	<b>第一次配水管整備事業</b>
		11月	葉王寺簡易水道(四倉) 拡張統合
1979	54年	8月	<b>水道局本庁舎完成</b>
1982	57年	1月	<b>第二期拡張事業認可</b>
1983	58年	3月	夏井川水系と鮫川水系の 本管直結工事完成
1984	59年	8月	簡易水道料金の 郵便局自動払込み開始
1985	60年	10月	耐震性貯水槽(非常用地下貯 水槽)の整備開始 (令和2年度現在26基)
1986	61年	3月	大和簡易水道(好間)の 上水道統合
		3月	高崎簡易水道(小川)の 上水道統合
		4月	<b>第二次配水管整備事業</b>
		10月	上水道料金の 郵便局自動払込み開始
1987	62年	2月	上野原浄水場 拡張工事完成
		3月	【昭和61年度末 配水管延長1527km】
		4月	夏井川・鮫川水系水質汚 濁対策連絡協議会発足 ※いわき市及び近隣8市町村で構 成

西暦	年	月	主な出来事
1991	平成3年	4月	<b>第三次配水管整備事業</b>
1992	4年	3月	「いわき市水道水源保護条例」制定
		3月	<b>第三期拡張事業認可</b>
		5月	「いわき市水道水源保護審議会」設置
		10月	上下水道料金処理オンラインシステム稼働開始
1993	5年	2月	遠野簡易水道（遠野）統合事業認可
		3月	薬王寺簡易水道（四倉）の上水道統合
		5月	河川監視員制度の新設
1996	8年	1月	「いわき市・北茨城市水道相互応援協定」締結
		4月	<b>平浄水場内に水質検査棟完成</b> (現 水質管理センター)
		7月	<b>「すいどういわき」広報紙創刊</b>
1997	9年	3月	平浄水場拡張工事完成
		3月	【平成8年度末配水管延長1868km】
		5月	日本水道協会東北地方支部と東北6県の県支部との「災害時相互応援に関する協定」締結（いわき市は福島県支部所属）
		5月	常磐地内土砂流出災害（常磐配水池滑落 断水約700戸）
1998	10年	1月	いわき管工事協同組合と「災害時の応援給水及び応急復旧に関する協定」締結
		1月	いわき管友会と「災害時における物件の供給に関する協定」締結
		3月	遠野簡易水道（遠野）統合
		6月	水道料金等のコンビニエンスストア収納開始
1999	11年	4月	浄水場の運転管理業務を委託開始

西暦	年	月	主な出来事
2000	平成12年	4月	広域水質検査開始※双葉地方水道企業団の水質検査を受託
		4月	水道局財務会計システム稼働開始
2003	15年	4月	<b>第四次配水管整備事業</b>
2006	18年	5月	県内28の水道事業体と「日本水道協会福島県支部災害時応援協定」締結
		8月	福岡簡易水道（小川）の上水道統合
2007	19年	3月	<b>第三期拡張事業認可 軽微変更</b>
		3月	【平成18年度末配水管延長2113km】
2009	21年	3月	佐倉簡易水道（勿来）の上水道統合
		4月	<b>基幹浄水場連絡管整備事業</b>
2011	23年	3月	東日本大震災（断水約13万戸）
		4月	<b>第五次配水管整備事業</b>
2012	24年	5月	<b>第三期拡張事業認可 軽微変更</b>
2013	25年	4月	いわき市水道料金お客様センター開設
2014	26年	2月	磐城林業協同組合と「災害時の応援給水に関する協定」締結
		2月	第一環境株式会社と「災害時応援給水等業務に関する協定」締結
2015	27年	1月	<b>第三期拡張事業認可 軽微変更</b>
2017	29年	3月	【平成28年度末配水管延長2199km】
		4月	<b>重要給水施設配水管整備事業</b>
		4月	<b>老朽管更新事業</b>
		12月	水道局本庁舎耐震化工事完成
2019	令和元年	10月	令和元年東日本台風平浄水場浸水（断水約4万5400戸）
2020	2年	3月	【令和元年度末配水管延長2233km】
2021	3年	11月	<b>いわき市水道通水100周年</b>

## >>> 参 考 資 料 <<<

- ◆ 『いわき市水道史』 いわき市水道局 1983 (K/518/イ)
- ◆ 『平町上水道誌』 福島県石城郡平町役場 1926 (K/518/ウ)
- ◆ 『平市上水道第二期拡張誌』 平市役所 1954 (K/518/エ)
- ◆ 『いわき市史 第3巻 近代Ⅰ』 いわき市 1993 (K/210.1-1/イ)
- ◆ 『いわき市史 第4巻 近代Ⅱ』 いわき市 1994 (K/210.1-1/イ)
- ◆ 『新しいいわきの歴史』 いわき地域学会 1991 (K/210.1-1/ア)
- ◆ 『絵はがきの中の「いわき」』 いわき未来づくりセンター 2009 (K/210.6-1/イ)
- ◆ 『写真が語るいわき市の100年』 いき出版 2019 (K/210.6-1/シ)
- ◆ 『目で見るいわきの100年』 郷土出版社 1996 (K/210.1-1/メ)
- ◆ 『写真集 明治大正昭和 平』 斎藤伊知郎 国書刊行会 1980 (K/210.6-1/ウ)
- ◆ 『いわきの水道』 いわき市水道局 2018 (K/518/イ)
- ◆ 『植田町史』 いわき市 1987 (K/210.1-1/シ)
- ◆ 『四倉町上水道抄誌』 四倉町水道部 1937 (SK/518/エ)
- ◆ 『水質年報 令和元年度』 いわき市水道局 2020 (K/518/ヌ-2019)
- ◆ 『いわき市水道事業統計年報 令和元年度』 いわき市水道局 2020 (K/518/イ-2019)
- ◆ 『いわきの水道 統計資料編』 いわき市水道局 1979 (K/518/イ)
- ◆ 『いわき市 水道事業 東日本大震災の記録』 いわき市水道局 2012 (K/518/イ)
- ◆ 『わたしたちのすいどう』 いわき市水道局 1990 (AL/518/イ)
- ◆ 『いわきの浄水施設』 いわき市水道局 (K/518/イ)
- ◆ 『広報いわき』 いわき市
- ◆ 『すいどういわき』 いわき市水道局
- ◆ 『いわき民報』 いわき民報社

◇ 協力 いわき市水道局 いわき市平字童子町2-5 TEL0246-22-1221

水道局ホームページ <http://www.city.iwaki.lg.jp/suido.html>



令和3(2021)年6月29日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

令和3年度 いわき総合図書館 企画展「いわきの水道」

■会期 令和3(2021)年6月29日(月)~令和3(2021)年10月24日(日)

■会場 いわき総合図書館 5階 企画展示コーナー